

課題

- 高齢者等の路線バスでの移動にかかる経済的負担と高い助成ハードル
- 利用者、事業者、行政の割引施策遂行にかかる事務負担

- 路線バスの利用者減や減便

プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- 群馬県版MaaS(GunMaaS)を活用し、マイナンバーカード情報に基づいた路線バスでの高齢者割引、またバス及びタクシーでの交通助成ポイント(高崎市版GunMaaSポイント)を利用可能とするサービスを実装する。
- バスロケを導入し、バスの位置情報の案内を可能とする

[モビリティ・データの取得と活用]

- エリア内のバス事業者から共通IDが付与された利用実績(ODデータ)を取得する。
- 7市町村による合併により、市域も拡大になっていることから、当該実績を踏まえ、地域ごとの利用状況を分析し、年齢による割引率の検討や地域ごとの新たなサービスの検討など、持続可能な公共交通の構築に向け活用する。

[地域交通政策等との連携]

- 立地適正化計画において、地域間の公共交通の最適化と都市機能や居住を誘導する地域を定めている。ODデータの分析結果からバスのルートの再編・最適化、新しい交通サービスの提供など公共交通の再編に活用するとともに、福祉助成対象者等のデータを分析することで、都市機能や居住の誘導に活用する。

効果

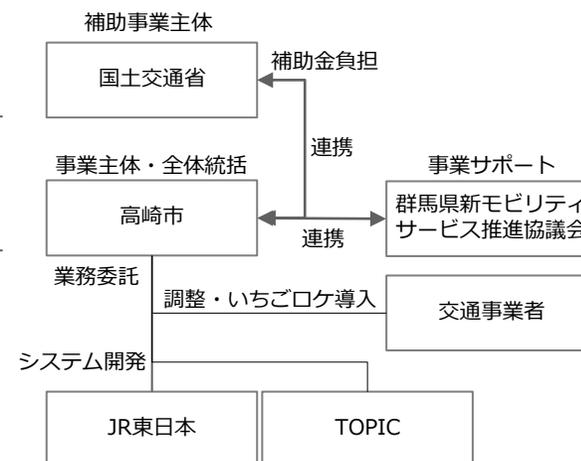
- 高齢者等による公共交通を利用する回数の増加
- 路線バスでの交通系ICカード認証基盤の構築等により、将来の交通再編への参考となる利用データの収集が可能
- 割引施策遂行にかかる事務負担が軽減され、時間効率が向上する。

事業の新規性

- 高崎市エリアでは、様々な交通モードを統合したGunMaaSアプリが提供され一部利用されているが、高崎市の行政施策として活用はできていない。今回、マイナンバーカードと交通系ICを連携することにより、簡易なUXによる属性に応じた割引サービスを実現する。また対象者へのGunMaaSポイント付与やスマートフォン端末を活用したGunMaaSポイントの認証/利用は初の試みである。

事業エリア/交通事業	事業エリア:高崎市/鉄道:JR東日本、上信電鉄 バス:群馬バス、関越交通、群馬中央バス、上信観光バス、上信ハイヤー、永井運輸、日本中央バス、西毛交通 タクシー:高崎市タクシー協議会
MaaSアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> ● MaaSプラットフォーム:モビリティ・リンケージ・プラットフォーム(JR東日本のプラットフォーム) ● フロントエンド:GunMaaSWEBを改修 ● マイナンバーカード認証:mytap(TOPICが運営する本人認証アプリ) ● 経路検索機能:mixway API(ヴァル研究所の経路検索API) ● ダッシュボードシステム:Google Looker Studio
データの活用等	<ul style="list-style-type: none"> ■ データの取得方法: MaaSアプリから利用者情報、バス等のODデータを車載システムから取得 ■ データの活用方法: ODデータをLooker Studio上で可視化し、今後の都市計画に活用

座組



スケジュール

4～6月	要件定義
7～10月	事業者間調整
8～12月	システム開発
12～1月	テスト運用
2月～	サービス提供